

2019/01/22 第4回推進委員会資料

# 秋田市小・中学校配置案

平成31年1月

秋田市小・中学校適正配置推進委員会



## 秋田市小・中学校配置案

秋田市小・中学校適正配置推進委員会では、将来的に子どもたちの人数が減少しても、豊かな人間性と学力を育み、心身が健やかに成長していける良好な教育環境を確保していくため、今後の児童生徒数の見込みを踏まえながら、望ましい学校の規模と7つの地域ブロックに配置する学校の数について、検討を重ねてきた。

このたび、本委員会として、各地域ブロックにおける将来の学校数の上限を、次のとおり示すものである。

### 1 地域ブロックの設定と学校数の上限

#### (1) 地域ブロックの設定

学校配置案における地域ブロックは、中央・東部・西部・南部・北部・河辺・雄和の7つとし、その範囲は、各地域ブロックに所在する学校の通学区域(学区)の総体とする。

○地域ブロックの小・中学校

地域	小学校	中学校	地域	小学校	中学校
中央	八 橋	泉	南部	牛 島	城 南
	泉			上北手	
	寺 内			大 住	
	築 山	仁井田		御野場	
	中 通	四ツ小屋			
	旭 南	山 王		御所野	御所野学院
	旭 北		金足西	秋田北	
	川 尻		下新城		
	保戸野			飯 島	飯 島
東 部	明 徳	秋田東	上新城		
	旭 川		飯島南	外旭川	
	太 平	太 平	外旭川		
	下北手	下北手	土 崎	土 崎	
	広 面	城 東	港 北		
	東		土崎南	将軍野	
	桜	桜	高清水		
西部	日 新	秋田西	河 辺	岩見三内	岩見三内
	浜 田			河 辺	河 辺
	豊 岩	豊 岩		戸 島	
	下 浜	下 浜	雄和	雄 和	雄 和
	勝 平	勝 平			

## (2) 将来の学校数の上限

地域ブロック	小学校数	中学校数
中央地域	6校 ( △ 3校)	3校 ( — )
東部地域	5校 ( △ 2校)	3校 ( △ 2校)
西部地域	3校 ( △ 2校)	2校 ( △ 2校)
南部地域	5校 ( △ 1校)	3校 ( — )
北部地域	6校 ( △ 4校)	3校 ( △ 2校)
河辺地域	1校 ( △ 2校)	1校 ( △ 1校)
雄和地域	1校 ( — )	1校 ( — )
秋田市合計	27校 (△ 14校)	16校 ( △ 7校)

( )は現在の学校数との比較

## (3) 学校数設定の考え方

地域ブロックごとの学校数の上限を設定した考え方は、次のとおりである。

ア 地域ブロックごとの2040年の児童生徒数の推計を、望ましい学級数である18学級に基づいて設定した学校配置素案の学校数の目安(範囲)で割り、1校あたりの人数を算出する。

イ 学級編制の現状を踏まえ、良好な教育環境として将来も確保する必要があると考えられる1校あたりの児童生徒数を小・中学校とも400～550人程度とし、これに該当する学校数をその地域ブロックの学校数とする。

ウ なお、地域ブロックの学校数は、将来の児童生徒数の動向に柔軟に対応できるよう、その地域における上限とする。

## 2 地域協議における留意事項等

---

### (1) 共通の留意事項

2019(平成31)年度から開始する地域との協議においては、次の事項に留意すべきであるとする。

- ①地域協議において検討する学校統合の方向性(組み合わせ)は、学校配置案に定めた学校数に基づくこととする。
- ②児童生徒数の動向等に応じて、上限よりも少ない学校数での統合の可能性も視野に入れる必要がある。
- ③学校統合の方向性(組み合わせ)は、小学校と中学校の学習面、生活面の連携を一層強化するなど、小・中学校の接続関係をより明確にするため、1つの小学校から同一の中学校に進学できるような学校配置のあり方を基本とする。
- ④学校統合の方向性(組み合わせ)は、まず中学校を優先して検討することとし、その後、中学校に接続する小学校の組み合わせを検討することを基本とする。
- ⑤学校統合の方向性(組み合わせ)の検討においては、学校施設や学区の状況、通学の実情などを把握したうえで、課題と対応を整理していく必要がある。また、現在の学区の見直しが必要であると考えられる場合は、様々な観点から柔軟に検討していくことが求められる。

### (2) 地域ブロック別の学校数の上限と留意事項等

地域ブロックごとの児童生徒数の推移と今後の見込み、学校数の上限および地域における小規模な学校や特に留意が必要な事項は、次のとおりである。

※各地域ブロックにおける小・中学校の2040年の児童生徒数は、秋田市人口ビジョン(2016(平成28)年3月作成)における目指すべき将来人口と国立社会保障・人口問題研究所(社人研)の人口推計(2018(平成30)年3月公表)に基づき、教育委員会が試算した推計値である。

## 1 中央地域ブロック

### (1) 児童生徒数の推移と今後の見込み

(単位：人)

区分	学校名	2008年	2013年	2018年	対2008 増減率	2040年	
						人口ピ	社人研
小学校	保戸野小	287	269	237	-17.4%	227	144
	築山小	482	442	386	-19.9%	370	234
	旭北小	361	306	273	-24.4%	261	166
	中通小	231	219	207	-10.4%	198	125
	旭南小	415	352	348	-16.1%	334	211
	川尻小	530	534	529	-0.2%	507	320
	八橋小	484	425	415	-14.3%	397	251
	泉小	593	523	486	-18.0%	466	294
	寺内小	403	387	323	-19.9%	311	195
	合計	3,786	3,457	3,204	-15.4%	3,071	1,940
中学校	秋田南中	500	418	344	-31.2%	330	208
	山王中	686	610	544	-20.7%	521	329
	泉中	767	690	629	-18.0%	604	381
	合計	1,953	1,718	1,517	-22.3%	1,455	918

### (2) 将来の学校数の上限

小学校	(現行) 9校	中学校	(現行) 3校
	↓ <b>6校</b>		↓ <b>3校</b>

### (3) 地域協議における留意事項等

- ①中央地域ブロックは、市の政治・経済の中心地であり、都市施設や公共公益施設などが集積する市街地としての特性を踏まえる必要がある。
- ②将来の中学校数は現行と同じ3校であるが、生徒数の動向によっては適正規模を下回る学校が生じる可能性もある。
- ③1つの小学校から複数の中学校へ進学しているのは、保戸野小（→山王中・秋田東中）と旭南小（→秋田南中・山王中）である。
- ④保戸野小の学区には、東部地域ブロックの秋田東中が指定校となる区域がある。
- ⑤1学年に1学級の小学校は、中通小である。

## 2 東部地域ブロック

### (1) 児童生徒数の推移と今後の見込み

(単位：人)

区分	学校名	2008年	2013年	2018年	対2008 増減率	2040年	
						人口ピ	社人研
小学校	明德小	303	280	207	-31.7%	198	126
	旭川小	607	535	539	-11.2%	517	325
	広面小	568	567	559	-1.6%	535	339
	太平小	99	65	36	-63.6%	36	22
	下北手小	141	132	93	-34.0%	89	55
	東小	509	478	482	-5.3%	463	293
	桜小	843	911	953	13.0%	913	579
	合計	3,070	2,968	2,869	-6.5%	2,751	1,739
中学校	秋田東中	529	477	458	-13.4%	440	277
	太平中	47	43	24	-48.9%	24	14
	下北手中	69	68	31	-55.1%	30	19
	城東中	545	496	495	-9.2%	475	299
	桜中	431	425	446	3.5%	428	270
	合計	1,621	1,509	1,454	-10.3%	1,397	879

※太平小の2008年には旧山谷小35人を含む

### (2) 将来の学校数の上限

小学校	(現行) 7校	中学校	(現行) 5校
	↓		↓
	<b>5校</b>		<b>3校</b>

### (3) 地域協議における留意事項等

- ① 東部地域ブロックは、豊かな自然環境を有するとともに、秋田駅東地区を中心とした開発が進んでいるエリアであり、広域な地域の特性を踏まえる必要がある。
- ② 小学校で複式学級がある学校は、太平小である。  
1学年に1学級の小学校は、下北手小である。
- ③ 1学年に1学級の中学校は、太平中と下北手中である。

### 3 西部地域ブロック

#### (1) 児童生徒数の推移と今後の見込み

(単位：人)

区分	学校名	2008年	2013年	2018年	対2008 増減率	2040年	
						人口ピ	社人研
小学校	日新小	973	891	831	-14.6%	796	503
	勝平小	794	729	646	-18.6%	620	391
	浜田小	123	85	57	-53.7%	57	33
	豊岩小	66	48	44	-33.3%	44	27
	下浜小	98	67	50	-49.0%	50	29
	合計	2,054	1,820	1,628	-20.7%	1,567	983
中学校	秋田西中	586	546	453	-22.7%	435	274
	豊岩中	29	34	26	-10.3%	26	16
	下浜中	49	45	27	-44.9%	26	16
	勝平中	368	380	308	-16.3%	295	187
	合計	1,032	1,005	814	-21.1%	782	493

※勝平小、勝平中には千秋分校の児童生徒を含まない

#### (2) 将来の学校数の上限

小学校	(現行) 5校	中学校	(現行) 4校
	↓		↓
	<b>3校</b>		<b>2校</b>

#### (3) 地域協議における留意事項等

- ①西部地域ブロックは、住宅地や工業団地が立地し、周辺には豊かな自然環境があるエリアであり、広域な地域の特性を踏まえる必要がある。
- ②将来の小学校数は3校であるが、児童数の状況を踏まえ、上限よりも少ない学校数での配置を検討する余地がある。
- ③複式学級がある小学校は、浜田小、豊岩小、下浜小である。
- ④1学年に1学級の中学校は、豊岩中と下浜中である。

## 4 南部地域ブロック

### (1) 児童生徒数の推移と今後の見込み

(単位：人)

区分	学校名	2008年	2013年	2018年	対2008 増減率	2040年	
						人口ピ	社人研
小学校	牛島小	514	509	378	-26.5%	362	229
	仁井田小	739	615	571	-22.7%	547	346
	四ツ小屋小	352	284	273	-22.4%	261	166
	上北手小	168	159	232	38.1%	223	141
	大住小	765	631	533	-30.3%	512	324
	御所野小	668	621	621	-7.0%	595	375
	合計	3,206	2,819	2,608	-18.7%	2,500	1,581
中学校	城南中	715	626	514	-28.1%	493	312
	御野場中	651	623	495	-24.0%	474	299
	御所野学院中	420	342	251	-40.2%	240	152
	合計	1,786	1,591	1,260	-29.5%	1,207	763

### (2) 将来の学校数の上限

小学校	(現行) 6校	中学校	(現行) 3校
	↓ <b>5校</b>		↓ <b>3校</b>

### (3) 地域協議における留意事項等

- ①南部地域ブロックは、秋田新都市地区をはじめとする多様な都市機能が集積し、周辺には豊かな田園が広がるエリアであり、広域な地域の特性を踏まえる必要がある。
- ②将来の中学校数は現行と同じ3校であるが、生徒数の動向によっては適正規模を下回る学校が生じる可能性もある。その際には、現在、中高一貫校として特認校制度(※)を適用している御所野学院中の動向も考慮すべきである。

※特認校制度とは、特定の学校について、通学区域に関係なく、市内のどこからでも就学を認める制度である。

## 5 北部地域ブロック

### (1) 児童生徒数の推移と今後の見込み

(単位：人)

区分	学校名	2008年	2013年	2018年	対2008 増減率	2040年	
						人口ピ	社人研
小学校	土崎小	243	220	210	-13.6%	202	128
	港北小	716	666	566	-20.9%	543	343
	土崎南小	288	278	281	-2.4%	269	170
	高清水小	384	345	280	-27.1%	268	169
	外旭川小	640	581	535	-16.4%	512	324
	飯島小	587	519	487	-17.0%	468	295
	下新城小	148	123	133	-10.1%	127	81
	上新城小	39	25	20	-48.7%	20	12
	金足西小	191	189	172	-9.9%	166	104
	飯島南小	546	443	416	-23.8%	398	252
	合計	3,782	3,389	3,100	-18.0%	2,973	1,878
中学校	土崎中	493	474	445	-9.7%	427	269
	外旭川中	276	287	254	-8.0%	244	154
	秋田北中	269	283	275	2.2%	264	167
	将軍野中	399	374	295	-26.1%	283	179
	飯島中	575	485	324	-43.7%	310	197
	合計	2,012	1,903	1,593	-20.8%	1,528	966

※下新城小の2008年には旧金足東小14人を含む

※飯島中の2008年には旧上新城中38人を含む

### (2) 将来の学校数の上限

小学校	(現行) 10校	中学校	(現行) 5校
	↓ <b>6校</b>		↓ <b>3校</b>

### (3) 地域協議における留意事項等

- ① 北部地域ブロックは、北東北の海の玄関口となる秋田港や工業地帯を有し、周辺には豊かな自然環境があるエリアであり、広域な地域の特性を踏まえる必要がある。
- ② 1つの小学校から複数の中学校へ進学しているのは、飯島小（→秋田北中・飯島中）である。
- ③ 複式学級がある小学校は、上新城小である。  
1学年に1学級の小学校は、下新城小、金足西小である。

## 6 河辺地域ブロック

### (1) 児童生徒数の推移と今後の見込み

(単位：人)

区分	学校名	2008年	2013年	2018年	対2008 増減率	2040年	
						人口ピ	社人研
小学校	岩見三内小	90	65	49	-45.6%	49	30
	河辺小	231	203	178	-22.9%	171	107
	戸島小	108	85	74	-31.5%	72	45
	合計	429	353	301	-29.8%	292	182
中学校	岩見三内中	56	38	32	-42.9%	31	20
	河辺中	176	147	138	-21.6%	132	83
	合計	232	185	170	-26.7%	163	103

※河辺小の2008年には旧赤平小22人を含む

### (2) 将来の学校数の上限

小学校	(現行) 3校	中学校	(現行) 2校
	↓		↓
	<b><u>1校</u></b>		<b><u>1校</u></b>

### (3) 地域協議における留意事項等

- ①河辺地域ブロックは、公園や河川など豊かな自然環境が広がるとともに、農林畜産業が盛んなエリアであり、広域な地域の特性を踏まえる必要がある。
- ②複式学級がある小学校は、岩見三内小と戸島小である。
- ③1学年に1学級の中学校は、岩見三内中である。

## 7 雄和地域ブロック

### (1) 児童生徒数の推移と今後の見込み

(単位：人)

区分	学校名	2008年	2013年	2018年	対2008 増減率	2040年	
						人口ピ	社人研
小学校	雄和小	303	264	180	-40.6%	173	109
	合計	303	264	180	-40.6%	173	109
中学校	雄和中	179	132	96	-46.4%	92	59
	合計	179	132	96	-46.4%	92	59

※雄和小の2008年と2013年は旧4小の児童の合計である

### (2) 将来の学校数の上限

小学校	(現行) 1校	中学校	(現行) 1校
	↓		↓
	<b>1校</b>		<b>1校</b>

### (3) 地域協議における留意事項等

- ①雄和地域ブロックは、空の玄関口である秋田空港や雄物川沿いに広がる田園、山林などの豊かな自然環境を有するエリアであり、小・中学校ともすでに将来の学校数である1校となっている。
- ②旧4小の統合による雄和小の設置は、他の地域ブロックにおける先行事例となるものであり、統合の検討経緯や統合後の取組などは、他地域の参考となり得る。